



そもそも

## 「脱炭素先行地域」とは？

国(環境省)が約100か所を選定するモデル地域です。

国の目標である2050年カーボンニュートラルに先駆け、2030年までにカーボンニュートラルを達成するエリアとして選定されるのが「脱炭素先行地域」です。単に脱炭素を進めるだけでなく、その取り組みを通じて地域課題の解決や地方創生を実現することが目的です。本市では、市内で発電した再生可能エネルギーを市内で活用する「エネルギーの地産地消」を推進し、エネルギー事業の収益を地域へ還元する仕組みづくりを進めます。



## 「脱炭素先行地域」に選定されたことで

国の補助を活用し負担が少なく取り組める！

国からの交付金 **32** (計画) 億円  
※令和8年～令和12年の5年間

国の交付金を活用し、エリア内の事業者へ再生エネ・省エネ設備導入をすすめ、脱炭素経営を支援します。高い補助率の交付金を活用できることで、事業者の電力コスト削減にもつながり、あらお海陽スマートタウンへの企業誘致の大きな強みとなります。



### 主な対象エリア

あらお海陽スマートタウン(家庭部門除く)・グリーンランドリゾート・ゆめタウンシティモール

このエリアのカーボンニュートラル達成で年間約11,000トンのCO<sub>2</sub>を削減！

これは、市全体の排出量のおよそ6%に相当します。

国の補助を活用し、再生エネルギー設備を導入するため、市は負担なく脱炭素に取り組めます！

## 地域のエネルギーを支える「有明エナジー」

本市は、近代化を支えたエネルギー資源である「石炭のまち」から、「新しいエネルギーのまち」への転換を進めています。その中心となるのが、グローバルエンジニアリング・三井物産・荒尾市の3者による連携協定のもと設立された地域エネルギー会社「有明エナジー」です。有明エナジーは、地域エネルギーを活用したまちづくりを推進し、本市の魅力向上に貢献します。



## Interview

有明エナジー(株)  
代表取締役社長 久保 宏幸さん



有明エナジーは、脱炭素先行地域のプロジェクトにおいて、電力インフラを活用して、エネルギーを地域で循環させる取り組みを進めていきます。こうした取り組みを通じて、CO<sub>2</sub>排出量の削減やまちの活性化を目指し、市民の皆さまの暮らしや経済に貢献したいと考えています。荒尾市に本社を置く唯一の電力会社として、地域の魅力や持続可能性をさらに向上できるように努めてまいります。皆さまの変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

これまでの主な取り組み

- 公共施設(約240施設)・民間事業者(約40施設)への電力供給
- 市庁舎や文化センターへのPV(太陽光発電設備)設置とエネルギーマネジメント
- 公共施設(3施設)・民間事業者(3施設)へのPPA方式によるPV設置
- 市内の卒FIT・非FIT電源を九州エリアの一般的な売電価格より高い水準で買い取り

# 石炭のまちから 新エネルギーのまちへ

県内2例目  
フェンス型  
太陽光導入！

荒尾市が、国の「脱炭素先行地域」に選定されました。これは、2050年カーボンニュートラルに先駆け、2030年までに家庭や事業所など民生部門の電力によるCO<sub>2</sub>排出実質ゼロを目指す全国モデル地域です。かつて石炭のまちとして日本の発展を支えてきた本市が、今度は新エネルギーで未来を支えるまちへ。脱炭素とまちづくりを両立させる新たな挑戦が始まります。



## 国からの選定、 そして新たなスタートへ

2月26日、環境大臣より選定証が授与されました。国から期待されるモデル地域として、本市の挑戦が正式にスタートします。本市はこれまで、令和4年度に採択された重点対策加速化事業により、太陽光発電設備や省エネ設備の導入を進めてきました。そしてこの度、最後の選定となる第7回公募において脱炭素先行地域にも選定されたことで、その取り組みはさらに大きく前進します。



「脱炭素先行地域」と「重点対策加速化事業」の両事業に選ばれている自治体は全国でも22団体！環境省から脱炭素を推進する自治体として評価されています！

### 市長よりコメント

### 未来をつくるエネルギーのまちへ

かつて荒尾市は、三池炭鉱のまちとして栄えた歴史があります。こうした歴史的背景がある本市では、ゼロカーボンシティを宣言し、石炭から新たなエネルギーである再生可能エネルギーを活用した脱炭素のまちづくりに取り組んでいます。そして今回、全国の脱炭素モデル地域である脱炭素先行地域として選定されたことを契機に、脱炭素を加速し、脱炭素の取り組みから魅力あるまちづくりを進めてまいります。

